

羽生市立西中学校

【B 部会（2 学年）】

主 題 名 自分の役割は何か
内容項目 C よりよい学校生活、集団生活の充実
教 材 名 「コロナ禍で気付いたこと」
（彩の国の道徳「未来に生きる」）



授業の様子



協議会の様子

1 各グループからの発表（ワークショップ型分科会）

- 授業の雰囲気がとても温かく素晴らしかった。生徒の意欲に驚いた。
- 教師の発問に対して、生徒はよく考えていた。話し合いがよくできており、安心して発言できる学級であった。日頃の授業の積み重ねを感じた。
- 導入は板書が工夫されていて、生徒にとって状況をイメージしやすいものであった。
- 道徳ノートが工夫されていて、心の成長についての積み重ねができると思った。また、教師の見取りにもなる。
- ICT を活用することで全体の意見を効果的に共有することができる。また、ICT の活用によって生み出された時間で、話し合いに時間をかけることができる。
- 書く場面と話し合いの時間のバランスを大切にしていきたい。

2 指導講評

- 導入は、問題意識をもたせ、自分との関わりで考えられるような工夫がされていた。導入だけでなく、話し合いを進めていく中で、自分の体験を想起できるような教師の言葉かけも大切である。
- 「大変だったのは自分たちだけですか？」のような問い返しから、社会との関わりの中で考えることができる。
- 家族やチームの一員としてできることを考えるとき、考えの理由を問い返すことで、道徳的価値についての考えを深めることができる。
- 道徳ノートには生き方について考えたことを記入し、積み重ねが見られた。1 時間の道徳科の授業だけでなく、学期等、長いまとまりで生徒の成長の様子を見ることができる。
- 小集団での話し合いは、教師の見取りが大切である。意図的指名につなげたり、ICT を活用して、仲間の意見を見る時間を設けたりすることも効果がある。
- 説話がとてもよかった。生徒に対する教師の温かい思いが伝わってきた。
- 道徳科において問題解決的な学習を取り入れる場合は、時間を確保して自分なりに考えを深め、納得解を得られるようにしたい。

